越高新聞

発行所 埼玉県立越ケ谷高校 新聞部
越谷市越ケ谷2788−1
0489−62−7285
印刷所 関信印堂(?)
浦和市岸町8−6−9
0488−29−2828

卒業式 全校集会経験者去る

卒業祭も開催

今年も例年通り、卒業式が行なった。楽しく、また、反面苦しかった高校生活の思い出を抱きながら、それぞれの新しい生活の場へ散っていった。職場へ、大学へ、そして、無常な浪人生活とさまざまな生活国境へ送りだした。そこで、卒業のもようを再現してみた。

去る三月十日に、体育館で、四十六年度第二十四回卒業式が行なわれた。ここ数年来、卒業式を行なうにあたって、全国各地の高校で、「ナンセンス」「帝国主義教育粋」というように形式的な卒業式に反対したり、自由・簡素化を求める声も多かった。しかし、今年度の卒業式は、このような声は聞かれず、比較的に、穏やかな卒業式だった。

今回の卒業式は「高校生活のくぎり」「総括」などの理由で、卒業生の大部分の賛成が得られ、卒業式を行なうことに決定した。一・二年生の参加も代議員会で話し合われ、その結果、全員参加という方向に結論がでた。

卒業式は午前十時に、全生徒が式場に入場してから開会された。一昨年のように「日の丸が燃える」「赤旗が燃やされる」という混乱もなく、少しザワザワした雰囲気の中で式がはじまった。

「校歌」「仰げば尊し」を合唱、前日配布されたプリントをみながらうたっている姿もちらほら。つづいて卒業証書授与。各クラスの代表がひとりづつ壇上で、武井校長から証書をまとめて手渡されるという方法をとっていた。卒業証書を受けてもあまり感激したようすもなかったようだ。

次に、〃在校生のことば〃として、一・二年の在校生の代表によって作成された「春たけなは・」ではじまった送辞を二年生の上村君が読んだ。つづいて三年生の関根さんが〃三年生のことば〃を読みあげた。内容を少し拾ってみると、三年間の高校生活で経験してきたことが主だった。球技大会や文化祭といった行事、修学旅行の思い出のこと、そして、二年前に二週間に渡って行なわれた全校集会のこと、受験体制をはじめとする今日の高校教育の矛盾、「おもしろくない機械的な授業」といった授業に象徴される授業への不満だったことやこれからの抱負への期待が述べられた。

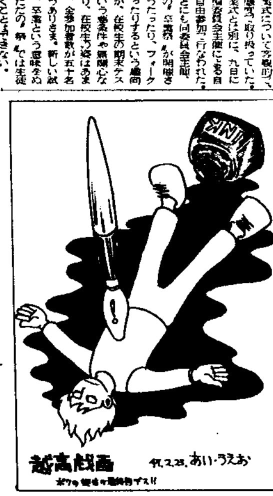
このあと「若者たち」を全員で合唱し、校長の祝辞をあとに「蛍の光」のメロデーが流れ、それと共に、卒業生が式場から退場して幕となった。経過時間は式が閉会するまで五十分あまり。いろいろの出来事のあった高校生活とはうらはらに、あっけない結末で、おさらばした卒業生達。

十一日の朝……のか、面白くない機械的な授業だった」「それは受験体制があったから。私たちは在校生に受験体制の戦慄を望んでいる」と少し皮肉を加え、卒業式について客観的で、興味本位な態度で取り扱っていた。

また、卒業式とは別に、九日には、卒業対策委員会主催による自主討論会が自由参加で行なわれた。卒業式のあとにも同委員会主催、生徒会後援の〃卒業祭〃が開催された。歌をうたったり、フォークダンスを踊ったりするという趣向も登場したが、在校生の期末テストの前日という悪条件や無関心な態度が重なり、在校生の姿はあまりみられず、全参加者数が五十名足らずというありさま。新しい試みであるが、卒業という意味をぬきにした、ただの〃祭〃では生徒の関心をひくことはできない。

(フォークで盛上る卒業祭)

越中屋



越高戯画 '71.2.23. あい・うえお

未だ定員に満たず

第二十二期中央委員

昭和四十六年度後期の中央役員が正式に決まった。今期は例年にない立候補者ゼロという非常事態がおきて心配されたが何回も募集したところやっと三人の人が役員に決まったわけだ。これからの三人の活躍に期待しよう。

今回の役員改選についての経過を記しておこう。始めに今期も、いつもと同じ様に立候補者を募集したわけだが誰も出る人がいなかったのだ。そこで生徒会本部は再度募集ということにふみきったのだが、まるで人数が集まらない。数回の募集で三名が立候補に立ったものの定員九名に対し、三名とはあまりに少なく選挙管理委員会の方でクラス推選という形をとった。だがこれでもクラス推薦者は一人も出ず、どうしょうもないまま先の三人だけが役員に決まったままで運営するという最悪の状態になってしまったのだ。今回のような事がおきる原因に考えられることとして、なんといっても越高生が無関心的だということがあげられるのではないであろうか。もう二度とおきないようにするためにも、これからの積極的な態度を期待しよう。

とにかく役員になった三人に、これからの目標などについて聞いてみた。

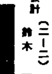
会長 (三一三) 尾花 清

私にとって生徒会とは私たち生徒集団の〃連体の場〃であり、生徒会は生徒個々の学校生活をより良いものにするものだと思います。しかし今の生徒会活動はどうでしょうか。生徒の学校生活をより良いものにする委員会、クラブが不活発であるのが現状です。これでは自分自身で自分たちの学校生活を不満足なものにしているのではないでしょうか。ですから私の目標は「クラブ、委員会の活発化」です。しかしこれらを行なうには長期にわたる活動と越高生ひとりひとりの積極的な参加が必要です。私の力だけではどうにもなるものではありません。今後の生徒会への積極的参加を私は望みます。

副会長 (二一六) 若色 洪子

私にとっての生徒会とは楽しく勉強しやすくそして生活しやすいようにしてくれる一つの機関なのです。ところが、今の越高生徒会の状態はこれとはまったくかけはなれているのが現状です。みなさんはみな「せっかく高校に入ったのだからどうせなら楽しく暮らした方がいい。」と、思っているに違いないでしょう。しかしそうするためには何事に対しても積極的にならなくてはだめなのではないでしょうか。「だれかがそのうちやってくれる」なんて思っていたら高校生活に不満を持ち続けることになると思います。そのためにも積極的になってほしいとみなさんに願うのです。ですからこれが私の目標であると思います。具体的にいうと交流集会の重要性というものをみんなに呼びかけるつもりでいるし、四月祭については新入生の人達に各委員会を充分に理解してもらい各クラブのPRなどをして生徒会活動に積極的に参加させるようにしていくなどです。

会計 (二一二) 鈴木 一郎



第二十二期中央委員会は定数九名に対して三名しかいないので年中行事に追われて、その他のこと(生徒会の活発化)の問題に手がまわらないのが現在の状態です。そんな中でみなさんへの希望は三無主義者にならず積極的に生徒会活動に協力してほしいのです。また卒業式の時、卒業生が言われた「ふみちがえた自由」について考えてほしいんです。この場合、卒業生が三年前に考えていた自由とは不当な圧力(強制)から、のがれることで一生懸命するのも、さぼるのも自由ということではないということも、もう一度考え直す必要があるでしょう。その他に、最大の目標として生徒会全体が停滞しているのを活発にすることが大事であるし、しなければいけないでしょう。あと生徒会会則の無理もやりたいと思っています。

進学 合格率大幅アップ

現役組

今年もやっと受験シーズンを終え、ホッとしている合格生。また、反対に来年こそはと、意気上がる浪人生などいろいろであるこのごろだが今年の越高生の進学希望者は各種学校を含め男子が八十五％、女子が三十八％であった。そのうち今回も昨年同様男子に較べて女子の上級希望者は非常に少なく三十八％のうちほとんどは各種学校希望者だったということだ。

ところで今年の進学の特色について進学指導部の斉藤(?)先生に伺ったところ、現役の場合、合格者が昨年、一昨年に較べ大幅に上まわったということをまっさきにあげられた。今までの合格率は三十五、六％であるのに対し今年は四十五～五十％ぐらいになるのではないかという学校側の見方である。その他にも一般に非常に合格が難関といわれている大学にも若干名合格しているということだし、なかなか明るい結果がでたようだ。また例年越高の場合、文化系に進む生徒が圧倒的に多く理科系は敬遠されやすかったが今年は理科系がとても多くなった、ともおっしゃっておられた。ただし欧米系においては合格は非常にむずかしく、これは例年通りということだ。以上は現役についてのことであるが浪人に至っては学校側に合格の通知がないので正しい実数は、はっきりしないが合格数は例年と大差はないらしい。

ここ数年、越高の上級学校希望者はうなぎのぼりであるが受験をするにあたっての受験者の心構えはどんなものであろうか。学校側ではやはり授業が一番大切だと言っている。とにかく基礎的な事がしっかりしてないと、どうしようもないしこのごろは基本的問題がとても多く出題される傾向にあるので、ぜったい授業はしっかり聞いてないとだめだということだ。それからやたら、むずかしい参考書を使うなというわけではないが充分能力に合ったものをやらないとかえってマイナスになってしまう事が多いらしい。やはり三年になってから急にやりだしても無理だということなのだろう。その他、学校で行なわれる実力テストなどはどんどん受けてほしいということだ。これについては、できるだけ多くの問題を、とりくみ少しでも問題を自分のものにしようということなのではないだろうか。なお合格者数は次の通り。

(四年制大学)

立正	一名
大正	二名
拓殖	二名
中央学院	四名
東京女子体育	二名
東京電機	二名
東海	四名
東洋	十七名
日本	十五名
千葉商科	一名
独協	七名
北里	一名
東北福祉	一名
専修	一名
明治学院	二名
東京音楽	一名
武蔵	一名
早稲田	二名
工学院	一名
明治	五名
東京経済	二名
関西外国語	一名
慶応	一名
国学院	一名
法政	五名
中央	二名
芝浦工業	三名

(短期大学)

東京家政学院	一名
関東	一名
聖徳	四名
大妻女子	一名
駒沢女子	一名
東洋女子	三名
日本女子経済	一名
戸板女子	一名
山脇学院	一名

(三月十八日現在)

尚、就職は、男七十四名の「就職内定」とあまり変わらないので省く。

新任紹介

本年度の職員異動が四月一日付けで正式に決定した。

榎本力蔵・校長

美術を趣味とし先生歴三十九年。「高校」とは修養の場で、「高校生」とは謙虚に勉強・運動に励むことだ、と定義づけをされた。現在の高校生が失なっているものは「目的」である。新入生に対しては、苦しみを乗り越えそれから楽しみを得、学校に登校して欲しい。

平久江一郎先生・数学

弁護士を志願し明大法を卒業されたが、自己を充分に発揮できる教師に魅力を感じ先生になられた。盆栽いじりが好きで、忍耐力のある誠実な人間の育成を目指し指導していきたい。

事務関係 池田さん

中央大学法学部卒業

慶又靖先生・数学

何かためになることをしたくて先生になられた二十九才、女子ありの先生。北海道出身で東理大を卒業し隣りの中央中に勤務されていた。趣味は囲碁をすることで、「囲碁同好会」発足を念願としていて、楽しく授業をしたい。

長谷川さん

読書と手芸が趣味とおっしゃる女性。女子校(川口)を卒業したせいか共学の越高に活発さが感じられるといっておられた。

図書助手 永田さん

大学の都合で図書の仕事をすることになった越高の先輩。マンガ(越高戯画著者)は中学の頃から初め、できれば将来はこれを職業としたいそうだ。まじめにやります……。

田中信先生・体育

スポーツ見学をするのが好きで東大宮から通っておられる若先生。去年、東教大体育学部健康教育科を卒業し我校に来られた。学生時代野球をやっていたのでクラブの顧問を望んでおられる。情熱をもって授業をしていきたい。

長谷部肇先生・英語

二十七才独身で羽生にお住まい。お兄さんの志をつぎ先生になられた。学生時代、考え方が幾分自己中心過ぎたが生徒にも、他人に迷惑がかからない程度にそういう……

転任―井上先生(桑高定・主事)、井坂先生(久喜工)、衣川先生(久喜商)、武井校長(不動岡高)、三野先生(不動岡女高)

退職―高橋さん(事務主事補)、平野さん(司書)、小谷川さん(図書助手)

(アイウエオ順)

目立つ時間の遅れ

予餞会

「開会のあいさつ」により始められた昭和四十六年度予餞会が二月二十四日(木)に行なわれた。開始時刻は九時十五分であったが多少遅れてしまった。ではあの日をもう一度再現してみよう。

野村胡堂原作「銭形平次(一一七)」。あの有名なテーマ曲にあわせてのゴーゴー。はじめにこれができたのにはドッと笑いがあふれた。これは普通の劇とはちがって、出演者と声の出演を別の人がやっていた。「恐かッタデスネ、恐カッタデスネ。コノ作品ハ一九七十二年ノ……」で御馴じみの〃淀川長治〃調の解説の八ミリ映写。銭様に投げあいをやったり指をくわえてうらやましげに見たり、いろいろありましたね。これでは一年一組の品位が落ちますね。これでは、さよなら、さよなら」と興奮気味になってきた所で、この時ばかりはしっとりとおしとやかな筝曲部の演奏。ウイスキー持参の落語。ギターと声の出演者持参の〃サニースカイズ〃のフォーク・エレキ持参の〃動進軸〃の演奏。このグループは結成して間もないとか。「それにしては、まあまあじゃない」という評が多かったようだ。

〃奇術同好会〃の奇術には驚嘆の声がもれていた。あんな風にしてお金が出てくればこの世はうまくいくのですが……。これで午前の部が終了。

午後はシェークスピア原作の〃ロミオとジュリエット〃で始められた。どうすることもできない家の対決、炎のように燃える恋、そしてはかない命。これは仲々の好評だった。次いで、フォークグループの〃青いトマト〃、野口仁……のフォーク(フロ)…それに去年からの念願だった先生方の出演。ここでは先生方ののどを披露してくれた。授業をうけている時には見ることのできないある一面を発見したような気がした。貫容の〃チャリティーショー〃は三年二組。この結果得た金額は「あゆみの箱」に入れられるとか。今頃はその箱の中でしょう。内容・人気・その他の点でも安定をしているのが〃タンポポ〃。今年はタンポポのテーマ曲〃タンポポ〃ができたそうだ。称して「ニコニコタンポポ」このグループでは、三年生のさよなら参加があった。喜劇が続いて〃ブラスバンド〃の演奏。交響曲・歌謡曲・テレビ番組のテーマソングなどを越高風にアレンジしての出演だった。

全体的にみると、出演者は一生懸命やったと思うが内容で非えるものが少なかったようだ。それにも増して問題になるのが〃時間〃だ。午前の部で二十分。全体を通して一時間も遅れた。〃司会者〃にも問題がありそうだ。司会者は会の進行や「穴うめ」のためにやるのだろうと思うが、もっと見ている人に退屈さを感じさせない程度にやって欲しいものだ。これらを考えてみても、実行委員の話し合い不足などのたらなさそれに生徒(出演者)の協力のうすさにあるのではないか。

(喜劇？「銭形平次」)

テーブル・マナー 実施

去る二月七日(月)卒業生を対象とする「テーブル・マナー」が四ツ谷にある〃東条会館〃で行なわれた。会費一人が一五〇〇円で自由参加。参加者は、生徒一七四名・引率者六名であった。これは十余年も前から実施されているもので恒例のようなものになっている。

実施された日は朝からあいにくと雪がふっていた。現地集合ということでバラバラに集まり、身だしなみを整えてから食堂に入った。一同が席におくと、解説者によって次から次へと出される料理にユーモアのある説明が加えられた。料理は〃川鯖トマト煮〃(これにはみんな魚の骨を取り除くのに苦心惨たんの様子だった)から始まりコーヒーでしめくくられた。さすが越高の上品な人達〃の集まりだけあって手を洗うボールの水を飲んだ人は見渡した限りではいなかったようだ。

その他、以前から決まっていた女生徒三名がそれぞれウェディングドレス・訪問着・打掛けの着つけを披露した。その姿にはまわりからの感嘆の声がもれていた。みんなが三人にみとれていたからかもしれないが、「みなさんもこのような姿をすれば、誰でも美しくなりますよ。」との説明者の賛辞にはみんなの笑い声が聞かれた。

参加者は女生徒の方が圧倒的に多い。というのは、進路も大体決定してしまい、進学希望者の多い男生徒より精神的な余裕があるため(中にはテーブル・マナーの必要性を感じていない人もいると思うが)だろうと思われる。それに自由参加ということもてつだって参加者自体があまり多くない。〃時期〃というものに多少の「難」があるのではないだろうか。

越高にも柔道が

柔道同好会発足

クラブ加入者が減少している現在ここに新生、柔道同好会が発足した。同会は一月三十一日の代議員会において、十六クラス中十四クラスの賛成をもって承認された。

普通どこの学校にもある柔道部がなかったこと。〃若い力〃を発揮するものがないということから昨年十月ごろから結成の動きとなってあらわれ年が明けて、発足となったわけだ。会員は十二人。活動日は月、水、金の週三日・練習は、男子更衣室を使っている。使えない場合は警察道場でやることになっている。更衣室と兼用のため土台であがられ準備で時間がかかり練習時間が少なくなってこまると言っている。

今後の目標としては、まずは「クラブ昇格」「他高との試合など交流を深める」「活動を毎日とする」(新一年生が入ってきてからの場合)と、以上三つの点だ。さしあたり「クラブ昇格」が一刻でも早く実現することが第一目標のようだ。

同会の役員は、会長・小川肇君(二の八)会計・石川文明君(二の六)顧問・高橋利明先生。コーチ・井村先生

バスケット部との顧問の兼任については、コーチの井村先生が、出てくれる。活動が軌道にのるまで、できるだけ出てがんばりたいと思う。練習は、まず服装をしっかりさせ、精神修養させたい。それからクラブ昇格も早く実現したい。(高橋先生の話)

プール 完成間近

越高生待望のプールが、三月三十一日の完成予定日をめざして、ただいま建設工事進行中。しかし、天候等の都合により、若干遅れる模様である。完成すれば、あとはプール開きを待つばかりだが、まだその日取りは決まっていない。できれば、先生方や父兄と相談をした上で五～六月頃に行ないたいそうです。生徒の中には、プール観を泳げないとかその他の理由で好んでいない人もいるらしい。しかし、その人たちにプールの必要性をもう一度考えてほしい。……先生はプールの必要性を次のように説明している。

①体育教育・国民皆泳という意味で全生徒が泳げるようにしたい。

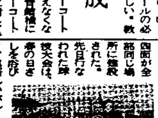
②水泳は、身体を鍛えるし、自分の身の安全を守る技術として大切である。

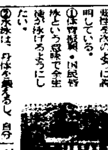
③海に面さない埼玉県及び河川の関係から特にプールの必要性が大きい。

と、以上の三つがおもなプールの必要性である。

バレーコート完成

プール建設に伴いバレーコートが、今までの場所では使えなくなったので、正門横から体育館横に移転した。今までのバレーコートが二ケ所に別れていたのに対して、今度新しくできあがったコートは、四面が全部同じ場所に建設された。先月行なわれた球技大会は、春の日ざしを浴びて、真新しいバレーコートの最良のコート開きだった。





(右上・更衣室 左下・プール)

久伊豆

▼「この閉ざされ、限られた世界のなかで、私に残されたあらゆる可能性を見出し、精いっぱい残された生命を、真剣に生きようと思っている。」これは「この生命ある限り」という本の一節である。治療法不明の第四頸髄症候群という病気で、両下半身及び左上半身がマヒしてしまい、病気での残りの生活を過っている、大石邦子さんの手記である。回復の可能性は全くなく、いつの日にかは全身マヒになってしまうという不治の病。一度は自殺をしようとしたが、自分の生命が続く限り、医学の進歩を祈りながら、残された機能が少しでもよくなるためなら、あらゆる苦悩と絶望に耐えて、一生けんめい生きようとしている。これほどまでに人間は、強く生きられるものなのだろうか。人間はだれでも「死」とともに生きている。「いつかは死ぬ」という交換条件のもとで、生命を与えられた。死を自覚できた時に、「生きる」という事を、強く感じられるのではないだろうか。しかし私たちは毎日の生活の中で「死ぬ」という事をあまり考えず、忘れているのではないだろうか。死とともに生きている自分というものを自覚せず、惰性で生きてしまいがちになっているのではないだろうか。人間の生には限界がある、という事を自覚すべきではないか。

▼一月二十四日、グアム島のジャングルの中から発見された、元日本兵の横井さん。二十八年間という長い間、ジャングルの中で生きていた。文明の発達した、現代社会に生きている私たちには、信じられない事だ。人間の生命力とはこれほど強いものなのだろうか。それとも「死」への恐怖が、人間を強くするのだろうか。「人間はなかなか死ねないもの……」とかいわれるが、人間は「もう少し生きていれば、何かいい事があるのではないか」という漠然とした期待があるから、生きているのかもしれない。現在私たちのまわりを見て、精神的に生きている人がどれだけいるだろうか。まさしく「三無主義」ではないのか。人間だれにでも等しく与えられた「生と死」をもう一度考えてみよう。

県立越谷高校制服取扱店

本店
女子高生の店
レディースショップ
とよだ
中町10−2
TEL 62−2878

支店
MEN'S SHOP
JUN
TOYODA
新町3−4−7
TEL 62−2574

心まで軽くするかけ心地。
汗をかいても、はげしく動いても、お顔にぴったりフィットする
スポーツマン、学生のかたにおすすめしたい メガネ
石川眼科
中島眼科 指定
駅前通り国道角 TEL0489(64)2357−8
いとう時計店

☆ ☆ ☆ ☆ ☆
たのしい靴・うれしい靴・幸せな靴・ナナホシの靴
ナナホシ靴店
本店 越谷3丁目 歩道橋際 TEL 0489−62−3418
支店 越谷1丁目 ヨーカ堂通り TEL 0489−63−0807
☆ ☆ ☆ ☆ ☆